

大谷九右衛門

延享五年

口上之覚

辰四月十一日書上申候扣

2 (白紙)

覚

一 従村瀬六郎左衛門様、御上江此度御役筋故
被為仰上候私身分ケ條之内

一 御上江対シ九右衛門過言之申候趣、九右衛門家督魚
問屋之儀^者従

國主城主御自由^{二者}難被成御儀^与申上候由、則
御上聞^ニ相達候段、風聞奉承知仕千万恐入迷

惑至極奉存候、此段江府より因府迄五年以前子之

4

三月十九日^ニ帰着仕候、其以來六郎左衛門様へ為御窺
罷出申候節、何之節を以右之過言恐を不見返
申上候儀、於私^ニ無御座と奉存候

一 御上江御用之御肴等被為仰付候節^者、則下作
舞之問屋共參上仕御用之旨相蒙御請開申上

來候儀^ニ御座候、生生六郎左衛門様^江私儀為御窺
罷出候折柄、右申上候通何之入割被懸仰候^ニ
よつて、御面上^ニ過言申上候儀毛頭覚無御

座御事

5

一 六郎左衛門様^江御出入申上候松風屋弥兵衛^与申者、此
者之儀、四年以前丑ノ六月六郎左衛門様鳥取御出勤

之節御來書を以右之弥兵衛儀私家^(△)錄魚問屋

下作舞として召抱候様^ニ御頼被為下、尤上町
下町問屋此以後^者打込^ニいたし、右之弥兵衛勤來之
治右衛門兩人^ニ以來私より申附候段、再三以尊書
被仰下候御事^ニ御座候、右之趣御返答申上候儀^者
私義家筋を存立御東^江為御願罷下り候

借用前後物入御座候、元来魚問屋之家錄を

質物ニ入、其上居宅家財砂畠等迄も質物ニ書入、
借銀年々仕、江戸往来前後八ヶ年振ニ帰国仕候
仕合ニ御座候故、物入段々及高借難儀仕候、右借用
銀主取組之儀者皆治右衛門八右衛門兩人より其身分江
請借り出、跡より江府へ仕登セ仕、依之私江戸より
罷帰候儀ニ御座候得者此度御頼を以八右衛門を放シ
弥兵衛治右衛門兩人江申付候儀者於私ニ忠儀を
いたし候者を子細なふして暇遣候儀も難仕儀ニ

御座候、然ル上者尊前様江奉対弥兵衛儀召抱下
作舞いたさせ可申上候旨御請申上候、然ル所弥兵衛儀
元来不勝手者ニ御座候故、問屋仕切錢段々不埒
仕、其上手前へ差出申候口錢之儀引込私勝手之
差問難儀仕候段筆紙ニ難延申仕合ニ御座候、則

六郎左衛門様より去々寅年四月日、後藤治部左衛門を以私方江
御頼被仰付候趣其方江取納候口錢之内弥兵衛ハ者
八貫文差免、弥兵衛へ遣シ吳候様ニと段々御頼ニ付、無

是非御意を不背御請申上、八貫文弥兵衛へ差免
遣シ申儀ニ御座候、其外六郎左衛門様へ奉対、右之弥兵衛へ
何角算用差引之儀ニ付、私之不益を不見返量見
をいたし遣シ申儀度々御座候、其上弥兵衛問屋
勤方仕切錢不通用連々仕候ニ付、雲州浦方御
当所魚中買之者共申合、去々年去秋比迄ニ數度
私宅江罷出弥兵衛不作舞仕ニ付、往来中買之者共
難儀仕候段断申入候ニ付、其段承知仕、重而仕切
錢等宜通用仕ル段急度申付度々請開仕、尤只今
不埒之儀者私より言葉を下ケ断申入置候趣ニ御座候
ケ様之儀相重り私量ニも不相叶首尾ニ御座候故
去春より則六郎左衛門様江御断申上、弥兵衛儀暇を
遣申度奉存候儀者ケ様ニ之訛、其上尊前様を
冠ニ着私を履ニはき無礼、五節句ニ季之祝儀礼ニも
手前へ不参、尤算用事ニ付呼寄セ候ても

不罷出万端差問候故、依之御頼之者^ニ御座候へとも

御断申上暇遣シ度と段々御断申上候得共、揮^而亦々
御頼被為成候故、無是非去年も召遣候所^ニ亦々去年
中不作舞、其上私^江差出候口錢之儀段々不埒仕候
付、恐を不見返御断申上、今年^者暇遣申儀^ニ

御座候、此儀^ニ付六郎左衛門様より御買使御役惣大夫殿
度々右之入割之御使^ニ御出被成候時節^ニ何之

入割^ニ付先^ニ書頤申候通、私より過言之儀申上候儀
茂^心頭^ニ無御座御事^ニ御座候、兎角何角^ニ付

11

六郎左衛門様より私義をば御難題被懸仰難儀
仕罷在候、此段左様^ニ思召可被下候

一
此度從御上被仰出候ニヶ條之御事奉承知仕候
右^ニ書頤差上候通御上を掠私仕候趣毛頭無御
座候御事と奉存候

一
御勝手御役人様より被為仰付候御用之趣、次御私用
迄も隨分入念身^ニ相叶候程之儀^者御請開申上来
相背候儀毛頭無御座儀^ニ奉存候御事、并右申上候通九右衛門儀

12

御上江奉対過言申上候と之儀、於私^ニ毛頭覚無御座候
則六郎左衛門様より之御使衆中へ何之入組を以何之
掛り合^ニ付過言申候儀覚無御座候、然共ヶ條^ニ御
立御書上被成候得^者、定^而慥之御立可被成御座^与
奉察候、此度之儀、於爰許^ニ去月十三日市兵衛を以
右被仰出候御改之趣恐入迷惑至極奉存候、此上^者
九右衛門手前御吟味被為遊候上^ニ而、其科被為
仰付被為下候段奉願上候、千万其科無御座候ハ、

13

正道之儀御聞直し被為遊被下候段、乍恐奉願候
此旨口上を以御請開奉申上候得共、御取上不被成候
其上然り候て乍恐愚意之一札を以右^ニ被仰出候
ヶ條之趣御請開申上度奉存、則一札相認市兵衛
迄差出候得共、是又御取上ヶ不為下、其上四度迄市兵衛
を以右之段奉願候所^ニ弥御取上ヶ不被為成趣、市兵衛より
私^江申聞候、此段無是非奉存、然ル上^者右之御請開之

一通差上申間敷候、私より市兵衛迄へ申上候口上覺書

いたし是を其元覚として此段を御兩人様江

被申上候段相願候へ共、市兵衛より私へ申聞候者、此度之儀付、九右衛門より書付之儀者一文字三而も御請不被為成候と之儀被仰付置候故者、書付者取次不申由ニ御座候へ而無是非仕合奉存候、市兵衛より申聞候趣、其方より何角与委細之儀御聞上ニハ及不申候、兎角丑年迄之通問屋口錢百七拾壱ヶ五百文之分取納メ申其余分者今年より取申間敷と之御返答可申上候

亦者弥寅卯両年之通三拾貳貫文之上り取可申候哉此段二つ一つとを切口上ニ而可申上と申詰候付、隨而御返答申上候口上之趣

一此度從御上被為仰出候二ヶ條之次第、乍恐御請開申上度奉存、愚意之一札相認市兵衛へ以上四度迄願上申候得共、書付之儀者御取上ヶ被為成被下間敷と之御事、無是非仕合奉存候、尤此度私より書付を以申上候儀者御願書ニ而者無御座候

右二ヶ條相蒙候御請開之趣書付を以申上候儀御座候へ共、此段御取上ヶ不被為成候儀、於私ニ無是非仕合ニ奉存候然ル上者問屋口錢之儀丑年迄之通百七拾壱ヶ五百文取納其余分堅ク取納メ申間敷と之御儀相蒙、行当り難儀至極奉存候、私義江府へ罷下り御願申上数年相詰罷在、八ヶ年振ニ帰国仕候付、前後路用之物入高借ニ相成、其上今日取続迄も難儀仕勝手必至ニ差間千万難儀仕候、然ル所ニ右之趣

相蒙御請申上候得てハ、家続可仕様も無御座、次々勝手を申上候得者御上江対御下知相背恐多段奉言語絶候、然共私義三拾五年以前極貧ニ付御国立去り申度儀乍恐御願申上候所ニ為御引留本源院様より魚問屋口錢家録と被為仰付被下置候段難有仕合ニ奉存、其節之御定法を以万端取作舞仕罷在候所ニ今年ニ至り御新

法被為仰付行當り迷惑仕候、私家錄取納候

18

口錢之儀、分數被仰付借銀之差開可仕様も無御座、勝手セまり申候得てハ則衣食住之^ハレ^ハ相放レ申儀^ニ御座候得^者無是非恐を不見返り右之分數たけ^ハ御^而請申上候儀^者御断申上、御請申上間敷候、此段恐入御返答申上候

一 八ヶ年振^ニ丑五月其御地より私義帰宅仕候節、類之者共其外心易人々為見舞參歎之挨拶^ニ其方儀江府^ニ相詰候内從日光

19

宮様為御救被仰蒙候段、先達^而致承知

手柄千万^ニ存候事^ニ候と歎申儀^ニ御座候^ニ付、私より之請口返答之趣天道^ニ相叶時を得從日光

宮様御太守様^江以御使僧則御憐愍

被御申付置候、大谷九右衛門儀此以後只今迄^ハ被御申付置候通、万事不相替被仰付置候

様^ニ御頼被仰進候故、從

御上々様右之御請以御使者被為仰上候^ニ付

20

從大和様則御奉書頭戴仕難有仕合生

前之面目不過之奉存候、然ル上^者九右衛門儀御國法御触万事相背不申候ハ、私之家錄之

儀^者從

國主様城主様

宮様^江對御儀定被為成被置候御儀^ニ御

座候^ハ者、從

御上々様御いらる之儀^者御座有間敷様^ニ

21

奉存候趣、右之人々^江物語申置候事^ハ御

座候、ケ様之趣^ハ六郎左衛門様御聞入被為成候^ニ付

過言と被仰上候儀^ニ御座候哉と奉存候

一 右此度相蒙候ケ條之趣、右より御願申上候通

私手前御吟味之筋被為仰付、其科有無之

儀を以御仕置相蒙可申答と乍恐奉存候、其御

詮儀無御座候^而、私義科人と被仰付候段、天道^ニ

（き申仕合^二御座候、乍恐家錄問屋店之儀^者

先年本源院様御代為御引留被為仰^者

家錄^{二而}御座候、毛頭私より御願申候儀無御座候時至り此度御改^二よつて御国法相背申候儀も御座候^而、家錄御取上ヶ、其上如何様被為仰付候儀^二御座候^而も、毛頭御仕置御免可被為遊様ハ無御座御作法と奉存候

一 乍恐私家名之儀天下^江相達候名目^二御

座候と思召被附候段天道^二相叶、右之家錄

頭戴仕、家続仕其上先之

大和様御威光を以関東^江為御願罷下り

御公儀様^江寸志之一通乍恐奉差上候儀^者

本源院様御慈悲を以身命取続罷在候故と

奉存、莫太之御太恩難有仕合奉存上候、然ル身として御上を掠、私用重御役人様より

被仰付候御用御私用輕麓^二仕、其上

御上^江対過言之申上恐を不見返、不行跡

仕候儀相蒙申上候段、生前之面目穢シ後代之家禁不過之儀と奉存罷在候、然ル上^者

御慈を以私手前其科吟味被為遊被

下候段奉願外ハ無御座候、此趣御不便と被

為思召重々恐多儀^二御座候^{ハ共}、何とぞ此一札

御両人様^江乍恐御役外御内々^{二而}御披見^二

御入可被下候ハ^ハ、生々世々御太恩^二奉存候、尤乍恐右之趣御両人様^二も御見分御内々^{二而}被為

成被為下置候ハ^ハ、此以後私手前御吟味之

刻御心底之御扣^二も可被為成哉と乍恐奉

存上候

一 六郎左衛門様より御上^江被仰上候ヶ條之内、私之過言之趣右之通風聞^二承知仕候、然候^者五年以前

子ノとしより丑ノ四月迄其御地御下屋敷并御向屋敷^二において私御運上御催促之儀^二付

宮様殿様江対、六郎左衛門様御過言被懸仰候儀
度々奉承知申儀ニ御座候、次ニ私江も段々御過言
相蒙居申候、其趣

一 丑三月於御下屋敷御小屋ニ六郎左衛門様より私旅宿江
御使札を以被召寄候ニ付、隨ニ而參上仕相窺居申候ヘ者
御意被成候趣、其方儀御運上兩年分右より段々
催促申聞候所ニ下々上納不仕候段前代未聞不届者
言語絶候、然ル上者米子江急ニ罷帰、右申付候通
御運上銀急度上納可仕候、度々此旨申付候ヘ者

27

兎角

宮様を申立候段、ちんふんかんふん之儀者此方江者
聞届申ニ不及無用之沙汰ニ候、弥御運上不納仕候ハ、
大和様より御手荒ニ被為成候ハ、問屋家錄御取上
可被為成候、左候ヘてハ

宮様蓮花寺五郎八も跡之祭り相成可申候、尤
右之御運上差上候役儀中間宮本助右衛門大谷
藤兵衛儀者米子ま綿作善惡其年之立毛ニ
より口錢取高下有之事ニ候、其方作舞之

28

魚問屋之儀者口錢取高下なく相居り申事ニ
候ヘ者御運上銀先達而差上可申所何角与申延引ニ
およひ候段、心底ニ隱田之いたし申同前ニ候、兎角
米子江罷帰御運上銀上納可仕候と急度被為

仰付候故、私申上候御返答之趣御意之通奉畏候
然共乍恐御断申上候、私義江戸より御當府迄帰
着仕御屋敷御役人江罷出江戸表御願申上候
前後之趣御注進奉申上、并日光從

宮様御太守様江九右衛門儀御頼之筋道

29

被為成御座候ニ付、其旨者從周防様御取捌被為
成可被下之旨被仰付其旨相蒙、依之相窺御
當府ニ未相詰罷在候儀ニ御座候ヘ者私之量見を以
早速米子江罷帰候儀も難仕御事ニ奉存候、然ル
上者從御屋鋪様右之趣周防様御屋敷江

御達被為成被下候段奉願候、次^ニ只今御意被成候
趣私之儀、御運上^ニ付隱田仕罷在候と被懸仰候
此段於私^ニ面目無御座候、於米子私家錄之
御運上被召上候段被為仰付候趣、忤儀相蒙早速

30

右之通江府^江以飛脚申越其旨奉承知仕、御
運上之御請江戸より申上候儀^ニ御座候、然ル上^者上納
奉仕候儀^者於私^ニ奉存候、尤御運上御免之儀私より
御願申上候儀^者心頭^ニ無御座候、

宮様殿様御儀定之品御座候故、此旨

周防様江府御勤番^ニ付、則御取捌被為成可被
為下候旨被為仰付首尾^ニ御座候^ヘ者

御上^ニ筋道明力^ニ相立申儀^ニ御座候得^者私^ニおいて

31

隱田仕申候儀とハ不奉存罷在候所^ニ、右之御口上
相蒙私ていとハ乍申無是非次第^ニ奉存候と申上候
右之趣私之儀^者如何様被仰付候^ヘても、私身分^ニて
相済申儀^ニ御座候

御上々様対六郎左衛門様右之御言葉^者則御
過言と愚意之私ていノ者^{ニ而}も奉存上候

一
六郎左衛門様より私^江被為仰付候御意之趣、明日^ニ至り
殿様より旦那様御登城之趣被為仰出、則於

32

御城^ニ從

宮様殿様^江九右衛門儀御頼^ニ付、則御請被為成
上候旨、檀那様^江御仰相下り候上^{ニ而}も、其方
米子^ニ住^所いたし候^ヘ者米子惣並之御運上銀
者其身よりも悲被召上事^ニ候、其旨相心得可
申^与之御事^ニ御座候、然ル上^者私より申上候御請
口其段^者如何様共御下知次第之儀、相畏可
申上候旨申上候御事^{ニ而}御座候

33

右之趣委細^ニ申上候儀^ニ而^者無御座と奉存候^ヘとも
近年六郎左衛門様より手代弥兵衛儀御頼^ニ付無是非
御請申上召抱相遣候儀^ニ付、何角^与御難題度々
被懸仰迷惑仕候、六郎左衛門様^江奉對不念者之

弥兵衛江下作舞申付、其上不益を不見返り

損分いたし居申段御一礼之儀者毛頭無御座、其上

此度私家御取つふし之ため、則私之ケ條

被仰上、依之御改相蒙身代相究申儀と

34

奉存、私儀身分之覚語仕罷在候、尤無

しつ二しほ二申二付、如此恐を不見返御過

言之品一々書顕申上候

一

右御頼之手代弥兵衛二付、近年數度難儀不益限り

なく迷惑仕候、去十月六郎左衛門様より村川市兵衛

為御使弥兵衛問屋作舞之儀両三度私へ御所望

御座候旨被仰付候へとも身二不相叶入割御座候

二付、乍恐市兵衛迄御断申上、御請不申上候

其品段々御座候へ共筆紙二難尽儀と奉存候、以上